

「エサをやるな」「エサをやるから増える」「エサをやらなければ余所へ行く」などの言い方について、キチンとARCでは以下のように反論しています。参考にしてください。 (また、もっといい言い方があればお知らせ下さい)

「餌をやるな」について:

ひもじい思いをしている犬猫に対して、食事を与えるなということは、「動物の保護及び管理に関する法律」の精神である生命尊重・友愛に反する行為と考えます。餌をやることはなんら恥じるのではなく、その逆に倫理的で動物愛護にふさわしいことです。野生動物に対する餌付け行為とは明らかに区別して考えるべきです。

「餌をやるから増える」について:

野良猫が増加する原因は、捨てる人がいる事と、不妊手術を行わない事です。繁殖による迷惑を防止するため不妊手術を行い、不幸にも捨てられた動物が寿命だけでも全うできるようサポートしていくことはきわめて倫理的に高いことだと思います。

「餌をやらなければ余所へ行く」について:

確かに野良猫は餌を求めて場所を移動するでしょう。しかし、それは単に同じ事を繰り返させるだけの事です。つまり、「迷惑」のなすり合いでしかありません。野良猫が繁殖可能な状態で余所へ行くことは、新たな野良猫を作ることであり、迷惑の拡大に過ぎません。野良猫に出合った者達が法の精神に則り、お互いの平和な生活のために、生命尊重を重んじた形で対応していくことが問題解決への道なのです。

下記の諸書面は11～12月に出した申し入れ書です。

書面 1

財団法人 住宅管理協会九州支部 様

アニマルライトセンター
東京都町田市中町1-5-3-401
0427 (27) 6097

あおぞら (67号) 「犬猫の飼育やめて」に対する申し入れ書

貴会の機関誌を拝見させて頂きました。集合住宅での動物飼育に関しては、問題が起こり易いことは認識しております。しかし、貴誌67号に掲載されている内容は、集合住宅での飼育に際する現実的な問題点の記述はほとんどなく、「仮定」として動物の飼育に対する嫌悪感を増長させるものでしかありません。

欧米では、既に集合住宅での「動物との共存生活」が定着しておりますが、日本でも近年永住型集合住宅の増加に伴い、集合住宅での動物との共存について、行政機関も前向き